

2019年度 大阪商業大学堺高等学校 学校評価

1 めざす学校像

- 建学の理念・校訓である「誠実」で「不撓不屈の精神」を有した生徒を育み「世に役立つ人物の養成」が実現できる学校をめざす。
- (1) 生徒の人権・人格・個性が尊重され、生き生きと学校生活を送る中で学力の獲得、マナーやモラルの改善など人間的成長をはかり、豊かな人格を形成できる学校。
 - (2) 地域に貢献し、支える中で、建学の理念を地域から活躍・発信し、生きる喜びが実感できる体験を通して、時代と社会に必要とされる教育機関として、ゆるぎない地位を占める学校。
 - (3) 教職員、生徒、保護者にとって、ここでの出会いと学びが明るく楽しく、豊かなこころが育ち、家庭や地域の幸福へとつながる他に類を見ない学校。

2 中期的目標

- 1 学力と道徳心を備えた社会に有用な豊かな人格の育成。
 - (1) 各コースの特色を生かした教育課程を編成し、生徒の学習意欲の向上を図る。
 - ア 公開授業等を活用して「生徒自ら取り組む授業」への改善を図る。
 - ※ 生徒の「授業は内容が充実し、わかりやすく展開されている」(H30の77%をH31には80%以上に)
 - イ 外部機関や他校の研究授業・研修に積極的に参加するよう奨励し、自ら学び続ける教職員集団を育む。
 - ※ 外部機関や他校の研究授業・研修に20人以上の参加。校内研修会で1度は全員が学習する。(H30の17人をH31には20人以上にする)
 - ウ 生徒の多様な学びの要望に応える授業やカリキュラム、課外プログラムの提供に努める。
 - ※ 生徒の「進路に関する必要な情報が適切になされている」(H30の79%をH31には85%以上に)
 - ※ 生徒の「授業以外で、希望進路に沿った補講や講座が充実している」(H30の71%をH31には75%以上に)
 - エ 進路に対する目的意識向上を図り、希望進路の達成を図る。
 - ※ 生徒の「希望する進路が達成できる」(H30の72%をH31には80%以上に)
 - (2) 特別教育活動など多様な体験活動を通して達成感で自尊感情と規範意識を高める。
 - ア 頭髪、服装、遅刻指導を推進する。
 - ※ 生徒の「校則・規則など学校の決まりは妥当である」(H30の63%をH31には70%以上に)
 - ※ 年間生徒一人当たり遅刻回数H30は6.8回をH31には6回未満にする。
 - イ SNSの普及による対人トラブルや人権侵害についての学習を推進する。
 - ※ このテーマに関連した新入生対象の学習会を年間3回以上実施する。
 - ウ 朝夕の立ち番指導であいさつや通学マナーの向上を図る。
 - ※ 生徒の「生徒はマナーを守り、挨拶ができる」(H30の67%をH31には70%以上に)
 - エ 体育祭、文化祭など生徒自治活動を推進し、学校行事の充実・発展を図る。
 - ※ 生徒の「体育祭や文化祭などの学校行事に楽しく協力し合って取り組んでいる」(H30の85%をH31は85%以上に)
 - オ クラブ活動の一層の活性化を図る。
 - ※ 教育活動推進部によるクラブ加入率調査(H30の54%をH31には55%以上に)
 - (3) 特別教育活動、教育相談の充実。
 - ア 特別なニーズを要する生徒に適切な対応を図れるよう教職員の研修を推進する。
 - ※ このテーマに関連した教職員向け研修会に3回、5人以上の参加。校内研修会で1度は全員が学習する。
 - イ 保護者、中学校、教育相談員、医療機関等との連携を密にし、多様な生徒への援助を図る。
 - ※ 生徒の「教育相談員(カウンセラー)が来校し相談できるシステムを知っている」(H30の55%をH31には60%以上に)
 - ウ 生徒情報を共有化し、3年間を見通してきめ細かい指導を行う。
 - ※ 教育相談室は100日以上開室(H30は104日)、全面接回数は500回以上(H30は364回)
- 2 地域に開かれ信頼される学校づくりの推進。
 - (1) 勤労教育の実践を推進し、建学の理念を体得させる。
 - ア 勤労体験学習の一層の充実を図る。
 - ※ 2年生の「勤労教育によく取り組んでいる」(H30の91%をH31には90%以上に)
 - イ 近隣の幼稚園、小学校の農業体験(総合学習)のサポートを通して連携強化を図る。
 - ※ 1幼稚園、2小学校あわせて年間40時間以上の農業体験に取り組む。
 - ウ 収穫感謝祭を通して近隣住民に本校の教育活動への理解と協力を推進する。
 - ※ 収穫感謝祭の参加者を400人以上(H30は約400人)
 - (2) 地域社会の一員としての自覚と責任感を持ち、活動を通して他者を思いやる心を養う。
 - ア 堀上町一斉清掃へのボランティアを継続し地域の美化向上に努める。
 - ※ 保護者の「商大堺は地域から信頼される学校である」(H30の84%をH31には90%以上に)
 - イ 堺市内の各種イベントに積極的に参加・協力し、地域のコミュニティや教育づくりに貢献する。
 - ※ 堺市立小学校連合運動会、中区区民フェスタ、「なかじよまちづくりミーティング」など堺市内の各種イベントにのべ100名以上参加。
 - (3) 学校情報の配信を充実させる。
 - ア オープンスクールや学校説明会、トワイライト説明会の内容を充実させる。
 - ※ オープンスクールの参加者を450名以上(H30は464名)、学校説明会の参加者を750名以上(H30は784名)トワイライト説明会のはのべ9回、参加者は170組以上(H30は169組)
 - イ 学校ホームページ、学校案内、meets up!、谷学ネットなどを更新、活用し学校情報の積極的な配信に努める。
 - ※ 学校ホームページは週1回以上更新。谷学ネット在校生保護者の90%以上の登録。(H30は84%)
 - (4) 学校施設等の諸条件の整備と防災教育を推進する。
 - ア 耐用年数、生徒数増加に見合った学校施設等の諸条件の整備・改善を推進する。
 - ※ 生徒・保護者の「学校の施設は充実している」(H30生徒の51%・保護者の53%をH31には60%以上に)
 - イ 防災教育や危機管理体制を再構築する。
 - ※ 年2回以上の全校避難訓練を実施。
- 3 生徒、保護者から信頼され、帰属意識を高める学校づくりの推進。
 - (1) 生徒、保護者、地域から信頼される教職員集団を育む。
 - ア 学力向上、生徒自治活動、教育相談などあらゆる教育活動を教職員が集団で取組む体制を推進する。
 - ※ 生徒の「先生は協力しあっている」(H30の75%をH31には80%以上に)
 - ※ 生徒の「先生方は気軽に相談できる雰囲気である」(H30の78%をH31には80%以上に)
 - ※ 生徒の「商大堺での高校生活に満足している」(H30の75%をH31には80%以上に)
 - イ 生徒による学校内外の清掃・美化意識を高めるよう推進する。
 - ※ 生徒、保護者の「校舎内は清掃がなされており、良い環境である」(H30生徒の67%・保護者の71%をH31には75%以上に)

自己評価アンケートの結果と分析 [平成 31 年 2 月実施分]	学校評価委員会からの意見
<p>《生徒》 クラブ活動が活発である 88% 体育祭や文化祭などの学校行事に楽しく協力し合って取り組んでいる 89% 雰囲気がよく楽しいクラスだった/である 93%</p> <p>《保護者》 クラブ活動が活発である 90% 体育祭や文化祭などの学校行事に楽しく協力しあって取り組んでいる 92% 在籍しているクラスは雰囲気がよく、楽しいクラスである 91%</p> <p>《教員》 クラブ活動が活発である 80% 体育祭や文化祭などの学校行事に楽しく協力しあって取り組んでいる 77% ⇒学級活動、クラブ活動などの課外活動、文化祭などの行事など、生徒が主体となり活動を行っている結果、満足度が高い。この結果を継続すべく、自治活動の推進と、教員がサポートを継続していく。</p> <p>(課題 1)</p> <p>《生徒》 授業は内容が充実し、わかりやすく展開されている 83%</p> <p>《保護者》 授業は内容が充実し、分かりやすく展開されている 83%</p> <p>《教員》 授業の内容を充実させ分かりやすく展開する工夫がなされている 68% ⇒生徒・保護者には、授業はわかりやすく提供できているものの、教員はまだ工夫の余地があると感じている。研究や外部研修の共有を行いスキルアップする必要がある。</p> <p>(課題 2)</p> <p>《生徒》 教育相談員が来校し相談できるシステムを知っている 61%</p> <p>《保護者》 教育相談員が来校し相談できるシステムを知っている 51%</p> <p>《教員》 教育相談員が来校し相談できるシステムを周知している 83% ⇒生徒、保護者へシステムの認知は上がっている。しかし、それだけ悩みを抱えている生徒や保護者が多くなっているともいえる。学校が皆にとって居心地の良い場所となるよう心掛けたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒・保護者・教員ともに学校行事（体育祭や文化祭）、勤労教育、クラブ活動に楽しんで取り組んでいる点、商大堺に入学して高校生活に満足している点、成長を感じられる点については、ここ数年を通して高い数値を維持して、保護者としても嬉しく思います。学校に楽しく通えるということが何よりですし、そのための先生方の取り組みや努力には感謝しています。これからも、ぜひこの状態を続けていただければと思います。 教員の外部機関や他校への研究授業・研修参加については目標を辛くも達成していますが、全教員の人数に比して研修参加数はまだまだ低いと感じられます。研修内容を教科中心に共有、授業等に反映させる努力をされているようですが、まだ情報の共有が浸透しきれていないことも想定されますので、研修参加数を来年度はもう少し増加させるとともに、教科内での共有と合わせて、学年、全体でも学んだことを共有できる機会を教員内で増やしていただき、さらにより良い授業ができるように反映していただきたいです。 学校の授業において、生徒アンケートでは、30年度より数ポイントアップされていますが、実際の現場で授業を受けている生徒たちからの評価がアップすることは、とても嬉しいことだと思います。一方、先生方の授業に対する、わかりやすくする工夫については、低い数値であることを考えれば、これからの授業をますますわかりやすく、さらなる工夫を為されるのだと期待でき、先生方の精力的な姿勢と努力に感謝です。しかし、校長先生がいつもおっしゃる、勉強だけができる、また、スポーツだけができるのは、ちょっと違う、人間性を高めなければならない、人として、人となりや常に考えて行動、成長を、と言うところも、多感な年齢で学校生活を送る子供たちに引き続きしっかりと教えるべきだと思います。また、子供たちにご教授くださる先生方にも、人間性の更なるレベルアップを、常に図っていただけますよう、お願いいたします。 保護者に、カウンセラーに相談できるシステムがあることを、周知してもらえるよう工夫し、各担任の先生方が告知することも大事かと思いますが、どうしても保護者はカウンセラーに相談してまで・・・との考えが念頭にあり、先生にすら、相談しないこともあるのではないのでしょうか。先生から生徒、もしくは保護者に、積極的に進めていただくことや、紹介することはもちろんですが、まず各ご家庭とコミュニケーションをとっていただくことが問題解決の糸口になるかと思います。 カウンセラーに相談できるシステムについては、私自身も理解していなかった点です。教室掲示と言う形だけでなく、ホームページなどにも活動報告のようなものを掲載することも検討いただけるといいかもしれません。また、生徒の中にはカウンセラーへの相談は敷居が高いと感じているかもしれませんので、気軽に相談できる存在であるというアピールもあるといいと思います。
<p>(課題 3)</p> <p>《生徒》 校則・規則など学校の決まりは妥当である 69% 生徒は校則を守っている 65%</p> <p>《保護者》 校則・規則など学校の決まりは妥当である 76% 生徒は校則を守っている 68%</p> <p>《教員》 校則・規則など学校の決まりは妥当である 40% 生徒は校則を守っている 20% ⇒校則について、生徒と教員の乖離が激しく、これが認識の差につながるのではないかと。また、校則などのきまりが妥当でないと感じている教員が多く、校則を見直すことも検討し、教員が共通理解を深め、一律の指導を行う必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 先生方のアンケート結果で「校則きまりが妥当か」が数値としては低い評価が気になりました。この回答は二通りに解釈ができます。もっと厳しくと、厳しすぎとです。これを理解することができませんでした。実際にどう考えておられるのかわかるようにしていただけたいと思います。 生徒が校則を守っているという項目での、教員と生徒間の乖離がかなり大きいと感じています。生徒側は守っているという意識であるが、教員側がまだできていないという認識のように感じていますので、教員が感じる生徒が守っていない校則を明確に伝えることが必要かと思えます。生徒の校則への理解度という点でも低い可能性もありますので、ただ厳しく取り締まるのではなく、今一度基本に立ち返り、校則それぞれを設けている理由などを生徒に伝えることで理解が得られ、教員との乖離も減るのではないかと考えます。
<p>《生徒》 勤労教育によく取り組んでいる（2年） 87%</p> <p>《保護者》 勤労教育によく取り組んでいる 88% 商大堺は地域から信頼される学校である 87%</p> <p>《教員》 生徒は勤労教育によく取り組んだ 92% 商大堺は地域から信頼される学校である 63% ⇒農業体験だけでなく心の教育を行う上で最も重要な取り組みであり、生徒・保護者にも理解が深まっていることは何よりである。収穫感謝祭や地域清掃活動などで、地域社会の中心となるようなお一層の努力を行っていく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 勤労の授業や、文化祭、体育祭、収穫祭など、学校の授業や行事を通して様々なことを学び、さらには地域の人々や、学校周辺の住民の方々と交流することで、他者への思いやりや、視野を広げることの大切さなど、子供たちの心を育む機会をつくることは、いつもながら素晴らしいと評価していますので、今後もずっと続けてほしいと思います。 勤労教育は、本当にいい取り組みだと感じています。私の息子が嫌がることなく参加していましたが、収穫した作物を息子も自慢げに持ち帰ってきました。野菜がどのようにできるのかというだけでなく、人の手が必要であり、たくさんの協力がなければ実らないことも学べたことは息子だけでなく、私たちも改めて感じることができ、大変貴重な体験でした。これからも多くの生徒さんに学んでいただきたいところです。

<p>(課題)</p> <p>《生徒》 学校の施設は充実している 57% 体育館、グラウンドは、使いやすい 73% 図書室は気軽に利用できる 63% 食堂は利用しやすい 75%</p> <p>《保護者》 学校の施設は充実している 55% 体育館、グラウンドは使いやすい 74% 図書室は利用しやすい 71% 食堂は利用しやすい 65%</p> <p>《教員》 学校の施設は充実している 14% 体育館、グラウンドは使いやすい 43% 図書室は利用しやすい 74% 食堂は利用しやすい 60%</p> <p>⇒施設・設備の老朽化、クラブ活動場所・部室の不足、生徒人数に対して狭い食堂など、施設に関する問題は喫緊の課題である。ICT教育の検討も含め、本校の将来ビジョンを計画し、早急な対応が必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の設備に関しては、教員の低さが気になります。日頃から利用されている教員の方が設備についてまだ万全といえないと考えている方が多いと思われるので、こちらについてはぜひ学校側が積極的に改善していただきたいと考えられます。 ・各部活で、生徒たちがのびのび活動できるスペースを確保することで、生徒たちの部活離れを止めることに繋がり、部活動のさらなる活性化が期待できると思います。高校時代での部活動は、人間性を育むことや、人間性を育むことや、友達や仲間、顧問の先生など他者との関係を育むのに、大切な役割を担っていると思いますので、子供たちには率先して部活動を行えるような環境を整えていただきたいと感じます。 ・食堂については、量や価格、使いやすさに再検討をお願いします。
<p>《生徒》 商大堺での高校生活に満足できた／している 82% (3年 94%)</p> <p>《保護者》 商大堺に入学させてよかった 90%</p> <p>《教員》 生徒は商大堺での高校生活に満足している 63%</p> <p>⇒生徒・保護者は本校での学校生活に満足していることは高く評価できる。しかし、教員は生徒の満足度を実感できていない面もある。</p> <p>《生徒》 先生は協力しあっている 81%</p> <p>《保護者》 先生は協力しあっている 84%</p> <p>《教員》 同僚の先生方には教育活動に関して気軽に相談できる 82% 同僚の先生方は協力しあっている 65% 同僚の先生は信頼できる 79%</p> <p>⇒数値は高いものの、生徒・保護者から見て 100%となる必要がある。教員もここに考え方の相違があるのは当然であり必要であるが、生徒に関わる上では共通認識を持ち生徒に関わっていく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・この3年間で、学校や先生方の考え、方針、教育理念を深く知ることができました。良さを知るからこそ、今後も続いて欲しいですし、卒業した子供たちが、大きく胸を張れる学校であってほしいと思います。また、どの子も、この学校に来て良かったね、楽しかったね、と言ってもらえるような学校づくりを、目指してほしいと願っています。これからも、商大堺らしさを残しつつ、よりよく進化してくださることを、望んでいます。 ・教員アンケート「同僚の先生方は協力しあっている」で1/3の方はできないと感じていることは重大な問題として改善するべく考えていただきたいです。教職員の方々のモチベーションこそが、子供たちの意識向上につながると思っているので。

	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	総括・自己評価	
1 学力と道徳心を備えた社会に有用な豊かな人格の育成。	(1) 各コースの特色を生かした教育課程を編成し、生徒の学習意欲の向上を図る。	ア 公開授業等を活用して「生徒自ら取り組む授業」への改善を図る。	生徒アンケート83%と6ポイント上がっている。しかし、教員アンケート「授業内容をわかりやすく展開する工夫」では68%と低い値であり、まだまだ授業展開を検討していく必要がある。外部機関への研修や教科内での公開授業を行い、生徒たちにとって「わかる」授業とは何か、今一度考えていく必要がある。(△)	
		イ 外部機関や他校の研究授業・研修に積極的に参加するよう奨励し、自ら学ぶ教職員集団を育む。	駿台予備校が主催する教員対象講座(13人)、科目名変更により取り組み方が変わった「総合的な探求の時間」の公開授業(2人)、各教科公開研究授業(7人)などに参加。また、夏季教員研修会には、京都大学講師の田中容子に「パフォーマンス評価」にまつわる講演を行っていただいた。上記(ア)に関連し、学んだことを強化を中心に共有し、どのように授業に生かしていくか今後の課題である(○)	
		ウ 生徒の多様な学びの要望に応える授業やカリキュラム、課外プログラムの提供に努める。	生徒アンケートでは、「進路に関する必要な情報が適切になされている」が87%と8ポイント上昇し、「授業以外で、希望進路に沿った補講や講座が充実している」は75%と4ポイント上昇している。昨年は入試制度が激変し、希望進路が達成できない生徒が多くポイントが低くなったが、今年度は早期から、進路指導部を中心に教員全員が研究会や説明会に参加し情報を得て、生徒たちに的確に伝えていくことができた。また、長期休暇における補習体制も行った結果が生徒アンケート高評価につながったといえる。(◎)	
		エ 進路に対する目的意識向上を図り、希望進路の達成を図る。	生徒アンケートは、全体は72%で増減なし。3年生だけを抽出すると、不満足は6%のみであった。上記(ウ)に関連し、説明会等で得た情報を教員が共有し、生徒とも共有した結果、生徒たちの満足いく結果につながったのではないかと。今後も、生徒、保護者、教員が連絡を密にし、生徒が満足いく進路実現となるよう指導していく必要がある。(◎)	
	(2) 特別教育活動など多様な体験活動を通して達成感で自尊感情と規範意識を高める。	ア 頭髪、服装、遅刻指導を推進する。	生徒アンケート「校則・規則など学校の決まりは妥当である」は70%以上(H30は63%)。年間生徒一人当たり遅刻回数を6回未満にする(H30は6.8回)	生徒アンケートは69%と6ポイント上がっている。また、「生徒は校則を守っている」も9ポイント上昇するなど、生徒の意識が上がっているといえる。しかし、教員アンケートの数値は低く、生徒が感じている状態と教員の思いが乖離している。生徒指導部を中心とした指導により、この乖離を埋めていく必要がある。また、遅刻回数は年間一人当たり6.1回と減少している。3学期から遅刻指導の取り組みを変化させてことにより、生徒たちの意識に変化が現れたのではないかと。今後もこの取り組みを続け、生徒とたちの意識向上に取り組むたい。(○)
		イ SNSの普及による対人トラブルや人権侵害についての学習を推進する。	このテーマに関連した新入生対象の学習会を年間3回以上実施。	例年と同じく、入学前の「合格者説明会」、入学式後の「保護者説明会」をはじめ、校外でのリエンゲージメントや総合学習、LHRを通じて、SNSの正しい使い方や危険性について学年、生徒指導部、人権担当を中心に指導した。しかしSNSによるトラブルはなくなり様相も変化しているため、教員も生徒と同じく学んだり外部の研修会に参加したりすることで、大きなトラブルが起きないよう準備していきたい。(△)
		ウ 朝夕の立ち番指導であいさつや通学マナーの向上を図る。	生徒の「生徒はマナーを守り、挨拶ができる」は70%以上(H30は67%)	生徒アンケートは75%と8ポイント上がっている。生徒会を中心に朝の挨拶運動やマナーの呼びかけも始まっており、生徒自治が少しずつ進んできている。しかし自転車マナーなどにより近隣の方からお叱りを受けることも度々あり、教員が目が届かない場所でも自制できる社会人としてのマナーを身に付ける必要がある。日々のHR等を通じて、自覚を持つようマナー指導を徹底していく必要がある。(○)
		エ 体育祭、文化祭など生徒自治活動を推進し、学校行事の充実・発展を図る。	生徒の「体育祭や文化祭などの学校行事に楽しく協力し合っており取り組んでいる」は85%以上(H30は85%)	生徒アンケートは89%と4ポイント上がっている。体育祭では、前年度から6段対抗で実施し、学年・コースの隔てなく関わっている姿が清々しい。文化祭においても、生徒会を中心に委員会活動を行った自治活動が見られ、生徒主体の行事運営ができつつある。(◎)
		オ クラブ活動の一層の活性化を図る。	教育活動推進部調査によるクラブ加入率は55%以上(H30には54%)	クラブ加入率は49%と5ポイント減少している。今年度は女ソフトボール部が全国大会出場を決定するなど、強化クラブでの実績は定着しているものの、ここ数年、生徒数増加とともに校内での活動場所が減少し、外部施設への依存などもクラブ加入率の減少の一因ではないかと。学習、行事、課外活動は学校としての柱であり、クラブが生徒たちにとっての居場所となる環境づくりを行う必要がある。(×)
		(3) 特別教育活動、教育相談の充実。	ア 特別なニーズを要する生徒に適切な対応を図れるよう教職員の研修を推進する。	このテーマに関連した教職員向け研修会に3回、5人以上の参加。校内研修会で1度は全員が学習する。
	イ 保護者、中学校、教育相談員、医療機関等との連携を密にし、多様な生徒への援助を図る。		生徒・保護者の「教育相談員(カウンセラー)が来校し相談できるシステムを知っている」は60%以上(H30は生徒55%、保護者51%)。	生徒アンケートは6ポイント上がっている。教室掲示による教育相談というシステムの告知だけでなく、担任を中心とした全教員が生徒たちの些細な変化を見逃さずカウンセラーにつながることができているといえる。しかし、保護者アンケートは昨年と同値であり、保護者へ周知していくシステムは整っていない。思春期の子供をもつ保護者のみなさまにとって、気軽に相談できる場所としてこのシステムを活用していくためにも、周知をしていくことが必要である。(△)
	ウ 生徒情報を共有化し、3年間を見通してきめ細かい指導を行う。		教育相談室は100日以上開室(H30は104日)、全面接回数には500回以上(H30は364回)。	H31年度から週4日体制となり開室日は131日と大幅に増えているが、面接回数は362回とほぼ変化なし。利用している生徒・保護者は継続的に利用していることが多く、悩みを抱えている家庭にとって、学校が居場所となる環境づくりは整っている。また、3名のカウンセラーと養護教諭をはじめ学年教員とのサマリーを各学期ごと行うことで、情報共有は密に行うことができている。(○)

2 地域に開かれ信頼される学校づくりの推進。	(1) 勤労教育の実践を推進し、建学の理念を体得させる。	ア 勤労体験学習の一層の充実を図る。	2年生の「勤労教育によく取り組んでいる」は90%以上 (H30 2年 91%)。	2学年の生徒アンケートは4ポイント下がったが87%と高い数値を維持している。作物を育てること以上に、「ところ」を養う時間として大切な場であり、他者への思いやりの心や周囲の人への感謝の気持ちを体感できる時間となっている。(○)
		イ 近隣の幼稚園、小学校の農業体験(総合学習)のサポートを通して連携強化を図る。	1幼稚園、2小学校あわせて年間40時間以上の農業体験を実施。	八田荘幼稚園、平岡小学校、八田荘小学校に対し、本校もしくは各学校にて、年間のべ40回の講義を行っている。講義は学校長自らがを行い、勤労講話や農作業体験を通じて子供たちは四季を体感している。本校生徒とともに体験することもあり、ともに見えられた保護者の方に本校を知っていただく良い機会となっている。近隣の学校園とともに地域社会を支える本校であるためには、今後も大切な活動と考えている。(◎)
		ウ 収穫感謝祭を通して近隣住民に本校の教育活動への理解と協力を推進する。	収穫感謝祭に400人以上参加。(H30は約400人)	11月16日に実施した収穫感謝祭には、約300名が来校。野菜は天候不順等により不作であったため、品数制限を行うなどしたが即完売した。近隣住民にも野菜即売やぜんざいのふるまいなど期待されており、野菜を販売する明るさ、運動部員のあいさつや運搬手伝いなど、生徒たちの活気あふれた姿を地域の方に見ていただく良い機会となっている。今年度は系列校の大阪緑涼高校からも汁物のふるまいがあり、系列校の連携できる行事となった。(△)
	(2) 地域社会の一員としての自覚と責任感を持ち、活動を通して他者を思いやる心を養う。	ア 堀上町一斉清掃へのボランティアを継続し地域の美化向上に努める。	保護者の「商大堺は地域から信頼される学校である」は90%以上 (H30は87%)	保護者アンケートは増減なし。毎年5月に実施される堀上町一斉清掃には100名を超える運動部員が参加し、側溝のふた上げや汚泥除去など、地域の美化活動の一翼をなした。(△)
		イ 堺市内の各種イベントに積極的に参加・協力し、地域のコミュニティや教育づくりに貢献する。	堺市立小学校連合運動会、中区区民フェスタ、「なかじよまちづくりミーティング」など堺市内の各種イベントにのべ100名以上参加。	女子ダンス部約20名が、中区区民フェスタや成人のつどいに参加。また、近隣の蜂田神社で開催される風鈴祭りでは、女子ダンス部が演技するだけでなく、陸上競技部が設営の手伝いを行い、地域行事に本校がかかせない存在となっている。また、堺市立小学校連合運動会の補助役員に2年生25名が参加するとともに、出場前の八田荘小学校の事前練習の実指指導に1年生男子バスケット部90名が参加した。運動部だけでなく、生徒会女子役員が年間を通じて「なかじよまちづくりミーティング」に参加し、交通安全に関するパンフレット作成に参加し、本校生徒にも配布した。(◎)
	(3) 学校情報の配信を充実させる。	ア オープンスクールや学校説明会、トワイライト説明会の内容を充実させる。	オープンスクールの参加者を450名以上 (H30は464名)、学校説明会の参加者を750名以上 (H30は784名)、トワイライト説明会はのべ9回、参加者は170組以上 (H30は169組)	オープンスクールは2回実施で418名、学校説明会は4回実施で760名、トワイライト説明会は9回実施で138名の参加とすべて減少している。学校紹介ホームページやオープンスクールにおいて、本校生の元気さ、明るさを感じ取ってもらえる機会となっているが、各種イベントの参加者減が入学者減に、なったと考えられる(×)
イ 学校ホームページ、学校案内、ドリームプレス、谷学ネットなどを更新、活用し学校情報の積極的な配信に努める。		学校ホームページは週1回以上更新。谷学ネットの在校生・保護者の90%以上の登録。(H30は84%)	今年度、ホームページをリニューアルしたことで、雰囲気も変わり全体的に見やすくなった。更新は不定期であるが、入試関連の情報、行事の予告や実施報告、クラブ戦績を中心に頻繁に行っている。また、今年度は高校入試の出願において、webによる出願用紙の作成を導入した。在校生だけでなく、受験生に対して見やすいホームページであるために、充実させていく必要がある。また、谷学ネットの登録者は87%と3ポイント増加している。気象警報時の緊急連絡などに使用しているが、「受信できなくなった」という声を聞くこともある。紙ベースの連絡では生徒を通じて行うことになるが、直接保護者に伝えることのできるツールとして、より多くの情報を早く確実に発信していくことが不可欠である。(○)	
(4) 学校施設等の諸条件の整備と防災教育を推進する。	ア 耐用年数、生徒数増加に見合った学校施設等の諸条件の整備・改善を推進する。	生徒・保護者の「学校の施設は充実している」を生徒・保護者ともに65%以上 (H30は生徒51%・保護者53%)	生徒アンケートは6ポイント増、保護者アンケートは2ポイントの微増である。昨年度の台風で倒壊した武道場に代わる空調設置の多目的武道場が新設した。しかし、サッカー部や体育館系のクラブは外部施設に依存しており、施設不足は否めない。また、ICT教育を行っていく環境も整わず、施設・設備については早急に検討すべき問題である(×)	
	イ 防災教育や危機管理体制を再構築する。	年2回以上の全校避難訓練を実施。	5月と11月に避難訓練を実施。校内での訓練では、一部緊張感のかける生徒もいるが、ここ数年、自然災害が多いこともあり意義を理解しすみやかに行動していた。(○)	
3 生徒、保護者から信頼され、帰属意識を高める学校づくりの推進。	(1) 生徒、保護者、地域から信頼される教職員集団を育む。	ア 学力向上、生徒自治活動、教育相談などあらゆる教育活動を教職員が集団で取組む体制を推進する。	生徒の「先生は協力し合っている」は80%以上 (H30は75%) 「先生方は気軽に相談できる雰囲気である」は80%以上 (H30は78%) 「商大堺での高校生活に満足している」は75%以上 (H30は75%)	「先生は協力し合っている」は6ポイント増、「先生方は気軽に相談できる雰囲気である」は4ポイント増、「商大堺での高校生活に満足している」は8ポイント増である。生徒たちに先生が協力していると見えているということは、教職員が一丸となり教育を行えているといえる。また、生徒が学年を経るごとに商大堺への満足度が増加(3年生は94ポイント)していることも、生徒の商大堺への帰属意識が高まっているといえる。この生徒や保護者との関係を今後も維持していくように、学校と家庭の連携は密にしていくことが必要である。(◎)
		イ 生徒による学校内外の清掃・美化意識を高めるよう推進する。	生徒、保護者の「校舎内は清掃がなされており、良い環境である」は75%以上 (H30は生徒67%・保護者71%)	生徒アンケートは5ポイント、保護者アンケートは3ポイントの微増である。年間4回の大掃除、文化祭・体育祭終了後の校内一斉清掃に加え、入試直前には壁掃除を中心とした美化週間を行った。清掃時は懸命に行う姿は見られるものの、日常は教室や廊下にゴミが落ちていることもあり、生徒たちの美化意識をまだまだ高めていく必要がある。(×)

2019 年度 保護者アンケート集計結果

		1	2	3	4
1	学校の教育方針を理解している。	27.6	57.6	12.3	2.4
2	授業は内容が充実し、分かりやすく展開されている。	22.0	61.4	14.2	2.4
3	それぞれのコース目標に見合った授業や教育活動が展開されている。	31.0	58.4	9.7	1.0
4	成績などの評価は適切に行われている。	37.3	56.9	4.5	1.3
5	進路に関する必要な情報が適切に提供されている。	29.5	48.3	19.3	2.9
6	大阪商大、神戸芸術工科大など系列大学について理解している。	26.1	44.8	22.8	6.3
7	授業以外で、希望進路に沿った補講や講座が充実している。	22.7	48.2	24.9	4.2
8	校則・規則など学校の決まりは妥当である。	27.2	48.4	17.4	7.1
9	先生方には気軽に相談できる雰囲気がある。	34.3	51.4	10.3	4.0
10	教育相談員（カウンセラー）が来校し相談できるシステムを知っている。	19.0	32.3	26.0	22.7
11	家庭への情報提供は十分に行われており、協力体制がとれている。	24.9	52.8	18.3	4.0
12	保護者会の活動は積極的に展開されている。	26.1	58.1	13.4	2.4
13	商大堺は地域から信頼される学校である。	26.2	60.6	10.7	2.6
14	先生は協力しあっている。	26.5	57.5	12.4	3.6
15	先生は信頼できる。	34.2	54.0	7.9	3.9
16	学校の施設は充実している。	15.9	38.6	33.2	12.3
17	校舎内は清掃がなされており、よい環境である。	23.6	50.5	20.0	5.9
18	体育館、グラウンドは使いやすい。	22.5	51.7	19.6	6.2
19	図書室は利用しやすい。	18.0	52.7	22.6	6.8
20	トイレは衛生的である。	29.5	52.0	14.6	3.9
21	食堂は利用しやすい。	23.1	42.3	26.8	7.8
22	生徒は挨拶やマナーなど基本的な生活習慣ができています。	29.9	54.0	14.1	1.9
23	生徒は校則を守っている。	24.6	53.4	17.1	4.8
24	授業は静かで落ち着いた雰囲気である。	19.6	50.2	22.7	7.6
25	生徒は学習によく取り組んでいる。	20.6	50.2	23.8	5.3
26	クラブ活動が活発である。	48.2	41.3	7.3	3.2
27	体育祭や文化祭などの学校行事に楽しく協力しあって取り組んでいる。	49.0	43.2	6.6	1.3
28	在籍しているクラスは雰囲気がよく、楽しいクラスである。	48.8	42.5	5.8	2.9
29	校則を守って学校生活を送っている。	47.8	43.1	6.7	2.4
30	授業・学習によく取り組んでいる。	35.0	48.2	13.8	2.9
31	勤労教育によく取り組んでいる。	39.2	48.6	10.1	2.1
32	希望する進路が決まっている。	41.4	28.8	20.4	9.5
33	商大堺に来てわが子は人間的に成長している。	41.0	46.3	10.5	2.3
34	商大堺に入学させてよかった。	46.9	42.6	7.6	2.9

2019年度 教員アンケート集計結果

		1	2	3	4
1	学校の教育方針に沿って教育活動を展開している。	13.8	63.1	16.9	6.2
2	授業の内容を充実させ分かりやすく展開する工夫がなされている。	12.3	55.4	27.7	4.6
3	コース目標に見合った授業を展開している。	12.3	50.8	24.6	12.3
4	成績などの評価は適切に行われている。	23.1	47.7	18.5	10.8
5	進路に関する必要な情報を、生徒・保護者に適切に提供している。	23.4	64.1	12.5	0.0
6	大阪商大、神戸芸術工科大など系列大学の情報を生徒・保護者に提供している。	35.9	51.6	12.5	0.0
7	授業以外で、希望進路に沿った補講や講座が充実している。	14.1	48.4	31.3	6.3
8	校則・規則など学校の決まりは妥当である。	10.8	29.2	40.0	20.0
9	生徒は先生に相談しやすく、親身になって相談に乗っている。	26.2	64.6	7.7	1.5
10	教育相談員（カウンセラー）が来校し相談できるシステムを周知している。	27.7	55.4	16.9	0.0
11	生徒に関わる家庭への情報提供は十分に行われており、協力体制がとれている。	10.8	64.6	20.0	4.6
12	同僚の先生方には教育活動に関して気軽に相談できる。	26.2	55.4	12.3	6.2
13	商大堺は地域から信頼される学校である。	12.5	50.0	29.7	7.8
14	同僚の先生方は協力しあっている。	18.5	46.2	30.8	4.6
15	同僚の先生は信頼できる。	20.0	58.5	16.9	4.6
16	学校の施設は充実している。	4.6	9.2	36.9	49.2
17	校舎内は清掃がなされており、よい環境である。	13.8	44.6	38.5	3.1
18	トイレは衛生的である。	23.1	50.8	24.6	1.5
19	図書室は利用しやすい。	24.6	49.2	20.0	6.2
20	体育館、グラウンドは、使いやすい	10.8	32.3	26.2	30.8
21	食堂は利用しやすい。	16.9	43.1	27.7	12.3
22	生徒は挨拶やマナーなど基本的な生活習慣ができています。	4.6	26.2	47.7	21.5
23	生徒は校則を守っている。	1.5	18.5	46.2	33.8
24	授業は静かで落ち着いた雰囲気である。	3.1	15.4	49.2	32.3
25	生徒は学習によく取り組んでいる。	3.1	13.8	60.0	23.1
26	クラブ活動が活発である。	36.9	43.1	13.8	6.2
27	体育祭や文化祭などの学校行事に楽しく協力しあって取り組んでいる。	21.5	55.4	18.5	4.6
28	生徒は勤労教育によく取り組んだ。	31.3	60.9	7.8	0.0
29	生徒は希望する進路が達成できた。	9.4	70.3	17.2	3.1
30	生徒は商大堺に来て成長している。	15.4	60.0	21.5	3.1
31	生徒は商大堺での高校生活に満足している。	7.7	55.4	30.8	6.2

2020年10月1日

2019年度学校評価に係る第三者評価委員会 議事録

日 時：2020年10月1日（水） 12：00～13：00

場 所：大阪商業大学堺高等学校 校長室

出席者：株式会社阪和鳳自動車学校 会長 皆見 量政

蜂田神社 磯崎 伸子

堀上北自治会 会長 谷井 浩一

八田荘幼稚園 園長 稲田 美穂

堺市教育委員会事務局 学校教育部 学校指導課 主任指導主事 川端 健人

浅田校長、西田教頭、河野教頭、奥田教頭補佐、田中事務長

欠席者：医療法人旭医道会ひとねクリニック内科 守 口 篤

記 録：西嶋（事務室員）

【議 題】

本校の教育内容、及び自己評価報告への提言について

【内 容】

はじめに、浅田校長より本校の教育方針等について説明があり、続いて河野教頭より 2019年度学校評価の概要及び自己評価の内容について、各領域の詳細な説明がなされた。

上記の説明を受け、第三者委員より以下の意見が出された。

（意 見）

①自転車での通学生徒が大多数を占めていると思うが、大半の生徒がマナー良く運転しているように感じられる。一部危険な運転をしている生徒を見かける時があるのが残念である。普段から熱心に生徒指導をしていただいているとは思いますが、より一層のご指導をお願いしたい。

→生徒指導部が主体となって教職員一丸で指導をしている。これからも地域の方々と連携しながら、根気よく指導を続けていく。

また、指導の成果として、大阪府で初めて「自転車通学安全モデル校」に指定していただいたことを報告させていただきます。

②生徒・保護者からの高校生活の満足度に関する項目が生徒は82%、保護者は90%と高い水準にあり、これは生徒や保護者と深い関係性を築けているからこそだと思われる。どのような取り組みや施策を行っているのか。

→生徒・保護者とのコミュニケーションを大切にし、教職員が一丸となって生徒や保護者らに真剣に向き合っていることが理由のひとつだと考えられる。

③校則は遵守されているのか。また、生徒も多様化している中で納得は得られているのか。
→生徒指導をきめ細かく行っているため、生徒は校則を遵守しているが、校則の内容について理解及び納得を得ているとは言い難い。校則の見直しも今後視野に入れて対応していく。

④大商大堺の特色ある授業として実施している勤労教育の中で農園体験学習として、近隣幼稚園や小学校を受け入れてもらっている。そのお手伝いをしてくれている生徒たちは、園児らの手を取って一生懸命に教えてくれていた。園児の保護者らも、面倒見が良くてやさしい大商大堺の生徒を見てとても安心しており、今後も取り組みを続けていっていただきたい。

→勤労教育の一環として、地域貢献の一助となるため近隣幼稚園や小学校に対して農園体験学習の受け入れをしている。園児や児童らと接することで本校の生徒も責任感や思いやりの心を学ぶことができおり、生徒らに取っても非常に良い学習機会となっていることを感謝している。

(総 評)

大阪商業大学堺高等学校の生徒は、礼儀正しく好印象な生徒が増えたと感じている。これは勤労教育や自転車運転免許制度などの様々な取り組みが実を結んでいるからだと思われるので、今後もより充実した教育を継続していただきたい。

また、アンケート結果を見る限りでは、全体的に高評価となっはいるが、「そう思う」の回答率を増加させていただき、生徒・保護者・教職員そして地域全体が満足する学校としていただきたいと思います。

→今後とも地域との相互理解を深めてより良い関係性を築いていきたいと考えている。

そのためにも教職員が相互に協力しながら、教育活動・諸施策に取り組んでいく所存である。今後も本校の教育活動にご理解とご協力をいただけるようお願いしたい。

以 上